

### 「技術力」を求めて



取得した資格：技術士（建設部門：港湾及び空港）  
資格取得年度：令和2年度

きく ち し ろう  
菊 地 志 郎\*

#### 受験の動機・経緯

技術士試験の申込み期限も迫る令和2年4月当時、私は地方整備局内で資格取得を推奨する立場にあったことから、まずは自分自身が資格取得に挑戦してみようと考えていました。

また、従前から、発注者の技術力の低下が叫ばれて久しく、我々が身に着けるべき“技術力”とは何だろうかと自問することが続いていました。

職員数が減少傾向の中でも、積算や発注手続きがミス無くできることは当然必要とされる一方、GXやDXの推進等々行政課題が多様化しており、求められる“技術力”も変化しています。このような中で、我々はどのようなスキルを身につけるべきなのか。悶々とする中で、資格試験において客観的にどのような“技術力”が求められているのか知るためにも、技術士試験を受験してみようと考えようになりました。

一方で、当時は新型コロナウイルス感染症が流行し始めた時期であり、世の中がこのような状況の中で受験してよいのだろうか、そもそも予定通り試験が行われるのだろうかと心配しましたが、逆に、コロナ禍で自らを客観視する中で、何か自らの職務経験の証となるものが欲しいという思いが背中を押してくれました。

#### 筆記試験における傾向と対策

一次試験は平成18年度に受験したので、あまり皆様のお役に立たないと思います。当時はまだ学生で、就活に向けた資格取得のために必死に過去問を解いた記憶があります。

以下では、二次試験について記述します。二次の筆記試験は、必須科目：2時間、選択科目：3時間半の長丁場です。私は必須科目Ⅰ、選択科目Ⅱ・Ⅲについて、いずれも過去問（日本技術士会のHPに掲載されています）を把握して傾向をつかむようにしました。

その上で、特に必須科目Ⅰ及び選択科目Ⅲについて、時間内に小論文をしっかりと書き上げることができるように対策しました。これらの問題の構成としては、いずれも次のようになっています。特定のテーマについて、(1)で多面的な課題を抽出・分析させ、(2)でそれらの中で最も重要な課題を選択して解決策を提示、(3)記述した解決策に共通して新たに生じうるリスクと対策を記述するというものです。さらに、必須科目Ⅰでは、(4)として、(1)～(3)を新たに業務として遂行するに当たり必要となる要件を技術者としての倫理、社会の持続可能性の観点から述べる、という問が加わります。

試験当日にこれらへの回答を一から考えていたの

\*国土交通省 港湾局 計画課 課長補佐

では時間が足りないため、予めテーマを想定（生産性の向上、DXの推進、国土強靱化、防災意識社会への転換、ライフサイクルコストの低減、ストック効果の最大化、観光立国の実現、働き方改革の実現等々）し、それらに対して(1)多面的課題、(2)解決策、(3)新たに生じるリスクと対策を表形式でまとめるという作業を行いました。この際、(1)、(2)については、それぞれ3点以上記述するよう心がけました（これらが小論文を書く際の骨子となります）。そして、それらのテーマで想定問を作成し、試験と同じ時間、同じ様式的答案用紙で小論文を作成するという練習を行い、時間配分や記述すべき分量、効率的に文章化していくコツといった実戦感覚を磨きました。

選択科目Ⅱでは、的を絞った対策は難しいですが（これまでの職務で培った専門的な知識が問われる部分だと思います）、題意を把握し、まずはキーワードをおさえること、キーワードを盛り込みつつ回答を構成することを意識しながら過去問を解き、試験に備えました。

なお、試験当日は、しっかりと感染対策がとられた上で、予定通り試験が実施されました。

## 口頭試験における傾向と対策

口頭試験では、技術士としての実務能力と適格性（技術者倫理、継続研鑽）について試問されます。

実務能力については、主にこれまでの経験をもとに問われるため、受験申込書に記載した業務内容の詳細について想定問を用意しました（受験申込書を書く段階で、口頭試験を意識しておく必要があるので注意が必要です）。具体的には、その業務における自身の立場・役割、課題・問題点、技術的解決策、成果等について、コミュニケーションやリーダーシップ、評価、マネジメントといった側面から客観

的に説明できるように想定問を作成し、頭の中で反芻しました。

適格性（技術者倫理と継続研鑽）では、技術士法や技術士倫理綱領に書かれている概念を把握しておくことも求められます。このため、技術士の3義務2責務等について、具体例も含めて説明できるように練習しました。この際、3義務2責務と技術者倫理綱領の各項目との対応関係（包含関係）についても整理することで、より理解が深まりました。

## 受験者へのアドバイス、注意点、励まし等

資格試験の一番最初の難関は、“重い腰を上げること”だと思います。動機は人それぞれだと思いますが、申し込みをしてしまえば、投資したお金（受験料）を回収しようと自分自身が必死に努力するようになると思います。是非、動機を突き詰め、第一歩を踏み出して頂ければと存じます。

今回の受験を通じて、国土交通行政を改めて俯瞰的に勉強し直すとともに、技術士に求められている“技術力”がどういったものなのか、私なりに理解できたと思っています。ご関心のある方は、受験を通じて、皆様それぞれの“技術力”を再定義して頂ければと存じます。

最後に、子育てをしながら週末私を図書館に送り出してくれた妻に感謝致します。

### 【著者紹介】 菊地 志郎（きくち しろう）

平成20年国土交通省入省（土木職）。国土交通省港湾局技術企画課、中国地方整備局港湾空港部、港湾局海岸・防災課等に勤務。四国地方整備局港湾空港部計画企画官、同港湾空港企画官を経て現職。